

1 このプログラムをこんなふうに使ってください



家庭教育学級（母親学級、成人教育学級などさまざまな呼び方があります）には、講演会型や体験活動参加型、子育てサロン型、在宅取組型など、いろいろな学習形態があります。詳しくは、家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」（県ホームページよりダウンロードできます）のP4～5をご覧ください。

どれもそれぞれよさがあり、いろいろな学習形態を取り入れたり、組み合わせたりして実施されています。

その中の「子育てサロン型」に参加された方々からは、「話を聞いてもらってスッキリした。」とか、「悩んでいるのは自分だけじゃなかった。」などの感想が出され、このような機会をもたれたことに非常に満足されていることがわかります。

また、「子育てサロン型」で学んだことを「在宅取組型」によって各家庭で実践することができ、家庭教育学級になかなか参加できない保護者も含め、多くの保護者に家庭教育の重要性について働きかけることができます。

そこで、この「子育てサロン型」「在宅取組型」の家庭教育学級をさらに充実するために、保護者の皆様方が

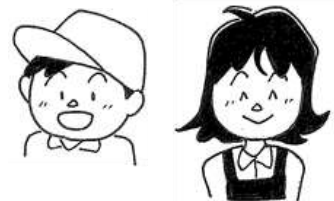
誰でも楽しく参加でき、誰でも会を進めることができる

「家庭教育プログラム」を作成しました。話題を決めずに自由に話すのも一つの方法ですが、時にはテーマを決めて話し合うのもよいのではないのでしょうか。そして、話し合った成果について、各家庭で実践していただけるとよいと思います。そんなとき、活用していただきたいのが、この「家庭教育プログラム」です。

「家庭教育プログラム」を活用していただくことによって、次のような効果が期待できます。

- それぞれの家庭の必要に応じた情報を得ることができる。
- 自分の家庭教育に安心感をもつことができる。
- 主体的に家庭教育について考えることができる。
- 保護者同士のつながりを深めることができる。
- 学んだことを家庭で実践することができる。

家庭教育は、「こうすればうまくいく」、「これが正解」というものではありません。ですから、「家庭教育プログラム」を使った家庭教育学級が、答えや結論を出すものではなく、参加者がそれぞれ意見を出し合うことで自分に合った方法を見つけたり、自分の家庭に合わせて工夫したり、これでよかったんだと再確認したりすることができる場となることを願っています。





2 プログラムの特色と構成

(1) 子育てサロン型

話してスッキリ、聞いて「なるほど！」

身近な出来事をもとに、参加者同士が話し合い、知恵を出し合い、参加者全員で作りに上げるプログラムです。

参加者が、安心して話し合いに参加できるように、進行役(学習活動を支援し促進する人)が、会を進行していきます。

参加者は、交流を通して自分にとって必要な情報に自ら気づき、獲得していきます。

たとえば、このように進めてみましょう！

1. アイスブレイク (10分)

雰囲気を和ませます。

2. ワークショップ (30分)

意見交換をして情報や悩みを共有します。

3. ふりかえり (20分)

自分を振り返り、新たな気づきがうまれます。

- ・ 保護者のネットワークづくり
- ・ 各家庭での実践

(2) 在宅取組型への発展

全ての保護者が、家庭教育の実践！

挨拶や歯磨きなどの生活習慣づくりや読書など、親子でできることを決め、各家庭で取り組みます。

取組の目的を明確にした上で、各家庭の状況に応じた取り組み方や内容を選択できるように配慮しましょう。

講演会型や子育てサロン型等の家庭教育学級への参加が難しい保護者にも家庭教育について働きかけることができます。また、家族のコミュニケーションを深めることができます。

たとえば、このように進めてみましょう！

1. 広報

参加者全員が家庭教育学級の目的や内容、取組方法等について共通理解します。

2. 目標の確認

各家庭で取組目標をつくります。参加者全員が同じ目標の場合は親子で目標を共有します。

3. 取組

取組カードに記録します。

4. ふりかえり

実践中や実践後、家族で思いを伝え合います。

- ・ 家族のコミュニケーションが深まる
- ・ 次の実践への挑戦

さらに…通信等を使って、各家庭の実践を共有しましょう。

3 参加者全員で確認したい3つの約束



この会は、ともに楽しく学びあい、皆さんでつくり上げていくものです。「参加してよかった」と思っていたくために、協力していただく3つの約束があります。

◇始める前に、参加者全員で必ず確認しましょう。

参加

積極的に話し合いに参加しましょう。

全員が参加できるように協力をお願いします。

尊重

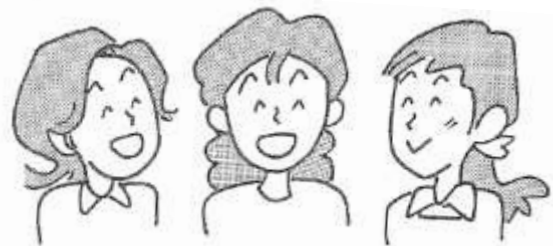
お互いの意見や感じ方を尊重しましょう。他の参加者の意見を否定したり、自分の考えを押し付けたりしないようにしましょう。

話したくないことはパスしてもかまいません。

守秘

子育ての交流ですから、個人情報に関わる内容も出てきます。同じ時間を共有する者同士の信頼関係のうえで行われる交流です。

決して口外しないようにしましょう。





4 プログラムの活用場面

学校・幼稚園・こども園・
保育所（園）の家庭教育学級

企業内家庭教育研修

子育て講座（公民館
や保健センター等）

PTA 研修会 保護者会
学級懇談会

入学・入園説明会
就学時健診





5 進行役について

(1) 子育てサロン型

進行役の役割



- ・ 参加者が安心して話し合いに参加できるように工夫し、参加してよかったと思っていただけるようにサポートしましょう。
- ・ 結論を出したり、まとめたりする必要はありません。
最初に、話しやすい和やかな雰囲気づくりができれば、会の成功は間違いありません。

ポイント 1

和やかな雰囲気づくり

<事前の準備>

- ・ 参加者の情報（テーマに関する実態等）をできる範囲で把握しておきましょう。
- ・ 可能であれば、託児の準備をしておきましょう。親子同伴での実施であれば、お絵かきセットの準備等ができるとういですがね。
- ・ 「活動のねらい」について、分かりやすく要点が押さえられるような表現を心がけましょう。
- ・ 参加者のニーズやお子さんの発達段階等により、プログラムを選定しましょう。進め方をアレンジしたり、各プログラムを組み合わせてたりして、効果的に進められるように十分検討しましょう。
- ・ ワークシートの「こんなことはありませんか？」については、便宜上ケースごとに、お父さん・お母さんの設定がしてありますが、どちらでもかまいません。

<当日の講座：ワークショップ>

- ・ 参加者の緊張をほぐし、何でも言える、何でも受け止めてくれると感じる雰囲気をつくりましょう。
- ・ 参加者の様子を見ながら、全員が参加し、平等に意見が言える雰囲気が保たれるように配慮しましょう。参加者同士がお互いを尊重しあう、和やかな雰囲気を作りましょう。途中で、全く違う方向に話し合いがそれたり、孤立しているような方がいらっしやったりしたら、さりげなく声をかけるとよいですね。

ポイント 2

参加者への配慮

- もし、好ましくない状況になったら、その原因には触れず適宜アドバイスをして流れを変えましょう。また、参加者が流れを理解できているか、時間の配分はよいかなど、進行上の調整をしましょう。
- 進行役は、参加者同士をつなぐ世話役でもありますから、参加者がよい人間関係を築けるようにしましょう。

<当日の講座：ふりかえり>

- 参加者の気づきや学びのある発言をメモしておき、全体で共有できるように投げかけましょう。
- 共感的立場で参加者の言葉など活かしながらアドバイスしましょう。また、参考資料等あれば、紹介しましょう。

<事後に配慮すること>

- 参加者には、様々な立場の方や思いをもった方がいらっしゃいます。表情や仕草、話し方など一人ひとりの様子に気を配りながら、臨機応変な対応に心がけましょう。中には、思いつめたり取り乱したりされる方もいらっしゃるかもしれません。そのときは、終了後、個別に話を聞くなど、寄り添うような対応を心がけましょう。



(2) 在宅取組型



進行役の役割

- ・ 参加者が、取組の目的や方法、取り組むことの良さについて共通理解し、成果を共有できるように工夫しましょう。
- ・ 取組を通して親子のコミュニケーションが深まるように工夫しましょう。
- ・ 楽しく取り組めるよう、取組表やネーミング等工夫しましょう。最初に、参加者を「やってみようかな」「やってみたい」という気持ちにさせられれば取組がうまくいくに違いありません。

ポイント 1

取組の様子をイメージしましょう

<事前の準備>

- 何について取り組むのかを決めます。
 - ・ 生活習慣を身につける（挨拶、歯磨き、時間を守る等）、望ましい活動の促進（お手伝い等）、親子の触れ合いの促進（親子読書、スキンシップをとる等）、家庭でのルールづくり（ゲーム・スマホ等）など様々なテーマが考えられます。
 - ・ 取組の対象になっている保護者や子どもたちにとって何が必要かを考えてみましょう。普段の保護者同士の話題の中から取り上げたり、保護者にアンケートをとったりすることも有効です。
 - ・ 学校や園が力を入れている教育活動と組み合わせると効果的です。
- 取組方法を決めます。
 - ・ 目標や期間、取組表への記入の仕方等を決めます。取組を行う子どもや保護者の様子を具体的にイメージするとよいです。
 - ・ 年齢別のテーマや、各家庭の状況に応じたテーマ等「目標」は変わってくるかもしれません。年齢や、各家庭の状況に差がある場合は、具体的な目標例をいくつか紹介した上で、家庭ごとに目標を作ってもらうことも有効です。
 - ・ 期間は、子どもや保護者の実態にあわせてやりきれる範囲で設定し、実施前に家族で話し合ったり、実施後に振り返りをしたりする時間もとるようにしましょう。夏休みや連休等、子どもたちが家庭で過ごす時間が長い時に、取組を行うことも有効です。
 - ・ 取組表は、できたら色をぬる、シールを貼る等、子どもたちの意欲が高まるように工夫してみましょう。

ポイント 2

取組の意義や価値、成果を共有しましょう

<取組の開始 >

○取組を周知します。

- ・取組の案内には、取組方法だけでなく、その取組を通して子どもたちや保護者にどんな学びや成長があるのかという取組の意義や価値についても載せましょう。

※家庭教育についての講演会や研修会、交流会等を行い、そこでの学びを在宅取組型として実践することもできます。その場合、講演会等に参加できなかった方にも会の内容が伝わるような案内を作りましょう。

<事後に配慮すること>

○成果をまとめ、周知します。

- ・提出された取組表は一人一人ががんばった成果です。花丸を書いたり、コメントを書いたりして、努力を認めて返却しましょう。
- ・取組の様子や子ども・保護者の声などを通信にまとめ、紹介しましょう。すてきな姿を多くの家庭に広めることができます。また、保護者が取組の価値を再確認することで、取組期間終了後も取組内容を大事にして生活することができるでしょう。

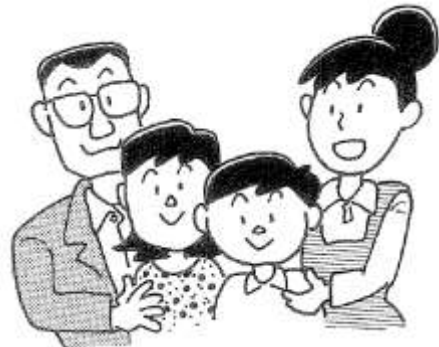
参考：家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」(P26)

【まとめの広報例 2】在宅取組型の場合

家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」は県ホームページよりダウンロードできます。

岐阜県 みんなで子育て

検索



6 取組を活発にする手法あれこれ



(1) 子育てサロン型 ～話し合いを活発にする～

○意見がなかなか出ないと感じたら、ちょっとした工夫で活発になる場合もあります。



①ロールプレイ

役割を決めて、演技をします。演じることで他者の立場になって考えたり、感じたりすることができます。



②ビデオ等の視聴覚教材の活用

話し合いの話題を提供したり、視点を明確にしたりするために、テーマに関するビデオ等を見ます。話し合いの時間を十分にとるために、ビデオについては長くなりすぎないように、必要な部分を事前に検討しておく必要があります。



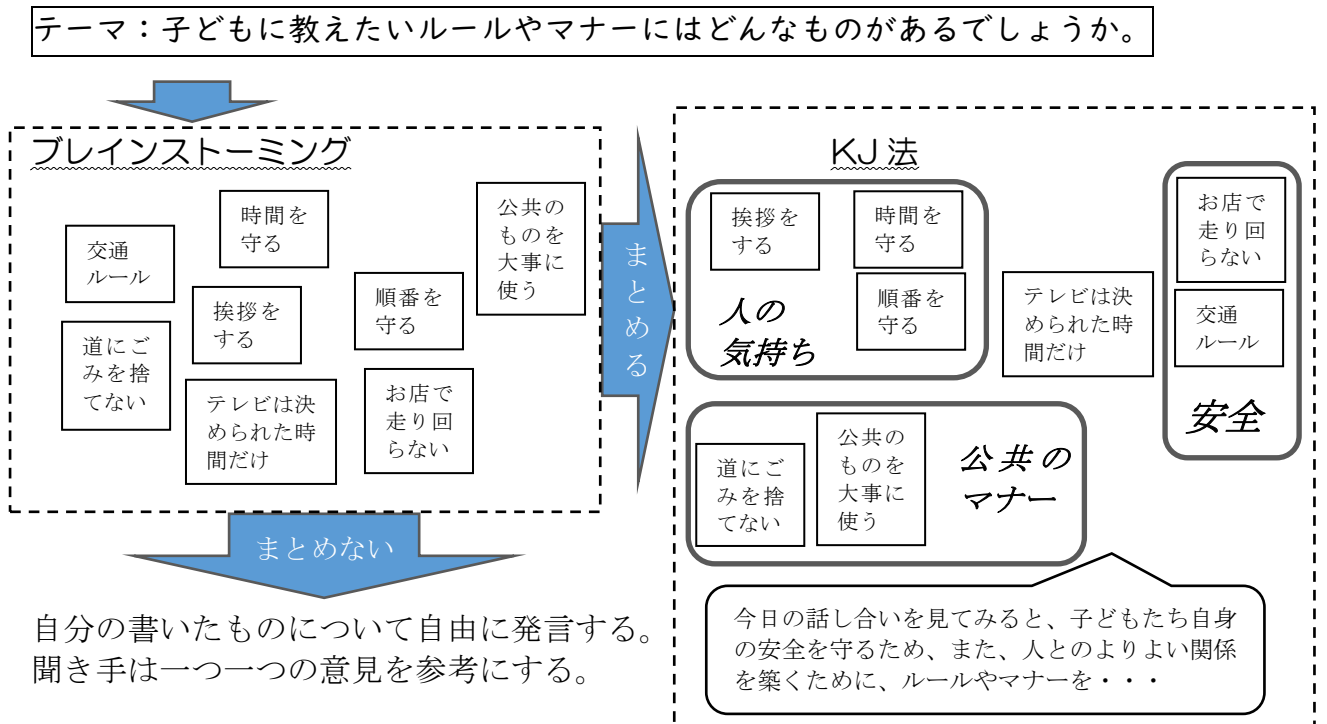
③ブレインストーミング

参加者が気楽な雰囲気の中で、自由に思いつきやアイデアを出し合います。カードや付箋に次々に記入していくと、まとめるときにわかりやすくなります。

・批判厳禁 ・自由奔放 ・相乗り歓迎 ・質より量 を意識して、進めることが大切です。

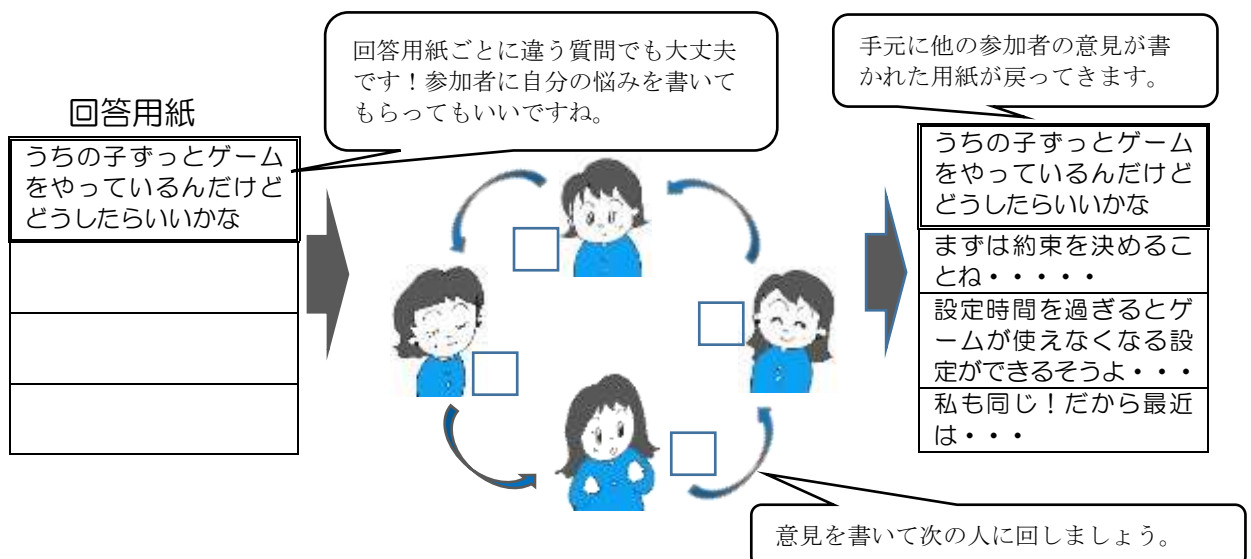
④KJ法

様々な意見やアイデアをまとめていくための方法です。③ブレインストーミング等で出された、意見やアイデアが記入されたカード（付箋）を、共通点のあるものでまとめて、まとまりごとに見出しをつけます。



⑤回答用紙を回す

質問事項と回答欄のある用紙を回していきます。参加者は用紙に質問についての答えを書いて、まだ記入していない方に用紙を回していきます。限られた時間の中で、複数の問題について回答を集めたい時に有効です。また、大勢の前で話をするのが苦手な方も気楽に参加することができます。



⑥マトリックス法

縦と横にそれぞれ項目を決めて、縦と横に組み合わせたそのマス目ごとに考えていきます。

	外遊び	家の中の遊び
いいなと 思っていること	晴れた日は外に出て遊ぶことができる。	「読んで」と本をもってくるようになった。
困っていること	遊具の順番でけんかがおきる。	部屋の中で走り回る。

⑦ランキング

課題やテーマに対して思いつく考えをカード（付箋）に記入し、参加者が自分にとって大切だと考えるものから順位をつけます。そして、順位をつけた根拠を発表し、話し合います。

テーマ：あなたが考える子どもに教えたいルールやマナーランキング。

1位 2位 3位

挨拶をする	時間を守る	お店で走り回らない
-------	-------	-----------

わたしがこういう順番にしたのは・・・



1位 2位 3位

挨拶をする	交通ルール	テレビは決められた時間だけ
-------	-------	---------------

わかるわ、やっぱりまず、挨拶よね。私は、次に・・・



(2) 在宅取組型 ～取組への意欲を高める～

○保護者の皆さんや子どもたちの取組への意欲が高まるようにちょっとした工夫をしてみましょう。



今回は「お手伝い」について各家庭で取り組んでいこうと思うんだけど、みんなが楽しくがんばれる取組にしたいわ…。

①取組名の工夫



まずは、親しみのもてる取組名を考えてみましょう。
「お手伝い大作戦!」「ハッピー!サンキュー!お手伝い」「チャレンジ!わが家の仕事」というのもいいわね。

取組名の工夫例

～県内の実践事例から～

「スキンシップで心あったか幸せ週間」
「わが家の防災会議」
「読もう!語ろう!わが家の読書!」
「ハグハグ大作戦」
「親子でレッツクッキング」
「わが家のミニトピックス」
「わが子を認める week」
「No ネット 5Days」

②取組方法の工夫



取組方法も工夫ができそうね。
どんなお手伝いができるか家族で話し合っ、ビンゴ表を作ってみたらどうかしら。実践したら、ビンゴ表を塗りつぶして、ビンゴを目指すってのはどう?

取組方法の工夫例

～県内の実践事例から～

- 地域の保育園、小・中学校が連携して同じ期間に同じ活動を実施した。
- ノーメディアデーの取組について、「朝から寝るまでノーメディア」「メディアを使うのは1日1時間」「夕食時はノーメディア」などのコースを設定し、家庭ごと取組内容を選択するようにした。
- 2週間連続して取組を行い、1週目の反省を2週目に生かすようにした。

③案内文書の工夫

保護者への案内文を作るよ。
取組方法だけじゃなくて、取組の意味や、効果についても伝えたいな。



案内文書の工夫例

(表)

令和〇年〇月〇日

保護者の皆様

〇〇小学校 PTA
会長〇〇〇〇

「ハッピー!サンキュー!お手伝いキャンペーン」
について

挨拶文.....
.....

記

1. 目的
2. 取組方法
3. 期間

(裏)

取組の効果

お手伝いの取組を実践することで、子どもたちの自主性や・・・という力が育まれます。

取組のポイント

- ・子どもに・・・と声をかけましょう。
- ・目標が達成できなかった時は・・・としましょう。

(各家庭で取組や約束を決めるときには、例を掲載しておく和良好的でしょう。)

親子で工作や料理をする取組等では、作り方等を動画で配信することもできます。

QR
コード

④取組表の工夫



イラストをかいたり、保護者や子どもたちに語りかけるように説明を書いたりして、楽しくやる気がでるような取組表を作りたいわ。

ハッピー!サンキュー!
お手つだいピンゴ

★お手つだいをきめよう!
お手つだいをきめて、ピンゴのマスの中に書きましょう。

★さあ、お手つだいをやってみよう!
お手つだいをやってみよう、ピンゴをつなげてみましょう。

お手つだいのかきかた

ピンゴは、お手つだいのマスに、お手つだいの名前や、お手つだいの内容、お手つだいの感想などをかいてください。

お手つだいがつづけていけるといいね!

こつこつ!ぐんぐん!おうちべんきょう

☆おうちべんきょう大きせん!
はじめるじこくをきめよう
日 月 日
べんきょうじかん
分 秒

おうちべんきょうをはじめるじこくをきめよう。おうちべんきょうのじかんをきめよう。おうちべんきょうのべんきょうじかんをきめよう。おうちべんきょうのべんきょうじかんをきめよう。

☆おうちべんきょうをやってみよう!

日	月	日	時	分	秒	分	秒
できた							
かな?							

◎=じぶんからできた □=いれなくてよかった △=できなかった でふりかえろう。

☆こつこつ つづけて、ぐんぐん できるようになろう!

日	月	日	時	分	秒	分	秒
できた							
かな?							

◎=じぶんからできた □=いれなくてよかった △=できなかった でふりかえろう。

⑤ふりかえりの工夫



取組が終わった時には、みんなに「がんばったね」って伝えたいな。すてきな実践については、みんなに紹介したいね。

ふりかえりの工夫例

- 写真やイラスト付きの取組カード(親子料理体験等)を学校の廊下に掲示した。
- 取組状況(結果)を文書にまとめて配付した。
- 担当者が取組カードにコメントを書いて返却した。
- すてきな取組実践や、子どもや保護者のあたたかいコメント等を紹介した。

7 アイスブレイクに活用できる簡単なゲーム



○アイスブレイクとは、参加者の不安や緊張を氷にたとえ、その氷（不安や緊張）を溶かすという意味をもった活動です。会を始める前に、雰囲気や和ませたり、グループ分けをしたり、自己紹介をしたりするために、活用しましょう。

①お題自己紹介（10人程度までのグループ）

- ・自己紹介の中で司会者が決めたテーマについて話す。
（春に食べたい物、好きな季節とその理由 など）



②他己紹介（10人程度までのグループ）

- ・2人ペアで相互にインタビューする。
- ・インタビューした人をグループの中で紹介する。

③キャッチ（何人でも）

- ・全員左手で筒をつくり、左隣の人の上にその手をもっていく。
- ・次に右手の人差し指を右隣の人の上でつくった筒の中へ入れる。
- ・進行役の「キャッチ」という合図で、左手は左隣の人の上で人差し指をつかみ、右手は右隣の人につかまれないように逃げる。

（キャットやキャップなど似た言葉を入れると、盛り上がります！）



④バースデーチェーン（20人程度までのグループ）

- ・1月から誕生日の早い順に並ぶ。
- ・並ぶ時、言葉を発しない。ジェスチャーなどで誕生日を伝え合う。
- ・並び終えたら順に名前と誕生日を言う。

⑤絵しりとり（10人程度までのグループ）

- ・ペンと大きめの紙を準備する。
- ・絵を描いてしりとりをする。
- ・絵を描いたり、見せたりする時、何を描いたかを話さない。
- ・全員が終わったら、何を描いたかを順番に発表する。

⑥後出しじゃんけん（何人でも）

- ・初めに、進行役と参加者が普通のじゃんけんをして、勝った回数を競う。
- ・一旦止めた後、後出しじゃんけんに切り替え、負けた回数を競う。

他のアイスブレイクも「家庭教育プログラム（乳幼児期編）」で紹介しています。

